

人生は夢だらけ

赤岩 洸明

●はじめに

まず、私がこの研修に参加することを決めていたのは、前高入学前のことだ。わたしは中学生の時に、この研修の存在を知り、是非ともこの研修に参加したいと思っていた。後輩、同級生の中に第5回 Oxbridge 研修に参加するか迷っている人がいたら是非とも参加してほしい。

●Oxbridge 研修前

私は研修前に英語で映画を観たり、TED (クマの方ではない) を YouTube で見たりしていた。正直言うとこの努力が英語面で好影響を与えたかどうかはわからない。しかし、精神的に謎の自信が生まれこの面においては良かったと思う。この他に、自分なりに質問したいことを箇条書きでまとめておいた。これは、研修で非常に役に立った。次回の研修に参加する人には是非全員やってもらいたい。

また、この研修では、円からポンドに前もって交換しておく必要があり、私はこのことで大きな失敗をしてしまった。イギリスとはおかしな国で、頻繁にお金の変更される。その畏に今回完璧にはまってしまった。私は 2012 年にロンドンオリンピックを観戦しに行き、その時のものが約 250 ポンド余っていた。もう言わずともお分かりだろう。私が持っていたポンドはほとんど旧札であり、そのほとんどが使用不可能になっていたのだ。それに気付いたのは研修の2日前の夜であり、もうどうしようもなかった。ただ、ひとつ自分を褒めるとすれば、病気や骨折などの怪我をせず健康な状態で、この研修に臨めたことだ。



●1 日目

朝4時という集合時間にも負けずに無事出発するができた。幸いにも、交通渋滞もなかったので前述した失敗は、空港での自由時間で解決することができた。また、フライトの食事で、なぜか自分だけにファーストクラスの食事が出るという奇跡が起きた。その時ちょうど、エコノミーの食事が切れてしまったらしい。みんな、お金持ちって良いぞ。

●2 日目

UCL の講師である紅林さんの話を聞いた。彼の話の中で「俺のこれ、世界レベル」という言葉が強く印象に残った。これを電子工学というフィールドで実践している彼の言葉には力強さがあり生き生きとしていた。将来私は、彼のようにひとつの事にとことん取り組み、いずれあの大きな背中に追いつくことができるのだろうか。その日部屋に戻ってからそんなことを自問自答していた。



●3 日目

この日は夜に反省会があった。皆自分の積極性のなさに嫌気がさしており、私もそのうちの一人だった。実はこの3日間、自分が思っていたより英語は喋れていた。しかし、見知らぬ人に話しかけに行く

ことへの勇気が足りていなかった。その上私には、英語以前にとっても重要なことが欠如していた。それは、「教養」である。社会問題に関してみても、知っているのは単語だけ。自分で考えを深く掘り下げていったことなど一度もなかった。そんな私は、相手に自分が小さい器の人間であるということを見破られることを異常に恐れ、相手にのみ意見を求めていた。これでは会話が続く訳もなく、本音をぶつけ合うトークもできるはずがない。「教養」を深める。これはこの研修が終わってからの自分に課す課題である。



●4日目

Oxford 海外留学生(日：2名、独：2名)とのディスカッションがあった。4人が揃って「大事なことは、どこの大学に入るかではなく、その後何をするのかである。」と言っていたのが印象に残った。その後岡本さんの話があったのだが、彼の話は、私がこの研修に参加してよかったと思えた最大の理由である。彼の話の中で「マジックワード」という単語が出てきた。「マジックワード」とは、聞こえはいいが、具体的に何をするのかわからない言葉のことである。具体性がなければ、言葉は空の容器と化し、何の進展も生まれない。そもそも、この研修のサブタイトルである、「生きざま研修」というのも完全なマジックワードである。生きざまとは何か。果たして自分はこの単語に具体性を見出させたのだろうか。

●5日目

この日はプレゼンテーションをした。私達の班は駅伝について発表した。もう少し日本で準備をしてくれば良かったという後悔はあった。しかし、班員全員で協力して、結果的には RA から多く質問が出るなど興味を持ってもらうことができたので、良いプレゼンテーションだったと思う。

●6日目

7日目、8日目は移動で終わってしまうので6日目が実質イギリス最終日である。この日は、London 観光をしたり、UCL を訪問したりしたのだが、ほかの人が書き記してくれていると思うので、割愛する。

●まとめ

今回の研修は、毎日が刺激的で、人生の中で一番充実していた1週間と断言することができる。私は研修前までは医師になることが夢だった。しかし、今回の研修で自分の夢が何であるのかわからなくなった。それは、今まで自分の見ている世界がとても小さいものであったからである。今回、ありきたりではあるが、世界がとても広いことを実感し（とは言ってもほんの少し覗いただけであるが）、自分が医師という職業に就くだけが自分の進むべき道なのか、もう少し別の分野で医学よりもっと情熱を注げるものがあるのではないかと考えた。そう考えるようになった。人生は夢だらけだ。この研修は明らかに私の人生において **Turning Point** となり、私の将来を良い方向へと導いてくれるのだろう。将来を明るく開けたものにするために、今の自分に満足することなくこれからさらに一層努力を続けていきたい。

最後になりますが、前橋高校の先生方や、ISA の皆様、引率して下さった加藤先生と松井さん、23人の仲間たち、私のことを支えてくれた家族、そして、この研修に関わって下さったすべての方々、本当にありがとうございました。